

1) 1期整備地区の提案

提案1 - 集会所とひとつながりの広場 - 3つのゾーン

私たちは「集会所と広場のマッチング」の実現にむけ、現プール・交通公園を廃し、前面の外部空間の地盤を掘り下げ、集会所から東側のケヤキ大樹までを緩やかに下る平らなひとつながりの「芝生の原っぱ」を提案します。これによって集会所は明るく開放的な場に生まれ変わり、地域コミュニティ活動の場に変身することとなります。平坦な広場空間はそれぞれ特徴的な3つのゾーンによって構成し、日常は子どもたちの遊び場や団地内の各種イベントの場、その他さまざまな使われ方を可能とします。

提案2 - 集会所前には可動 TENT 付きの木床広場

集会所の前面は室内の延長空間として様々な使われ方のできる半屋外の木床（ウッドデッキ）の広場を設けます。そこは天気の良い日はオープンカフェや子どもたちの遊び場などの様々な利用に供するでしょう。その結果、集会所は子どもたちを見守る母親たちや、それを支援する高齢者の人たちも集まり、さしづめ「おじいちゃんやおばあちゃんたちの子育て支援センター」の拠点となり、子育て世代の溜まり場となることも期待します。

提案3 - 中央の「芝生の原っぱ」は様々な活動の広場

広い「芝生の原っぱ」は団地の活動の中心的広場となり、団地の夏祭りや様々なイベント空間となります。また日常は子どもたちが裸足で遊べる場所となり、その側には子どもたちを見守る人々の座るベンチやスツールを用意します。ここは団地内だけでなく、広く小学校区の人々にも開放し、常に人の気配がする場所でありたいと考えています。そのため、芝張りには住民に加え、校区の子どもたちにも協力してもらうことも提案したいと思います。

提案4 - 東端には既存樹を活かした「こもれび広場」

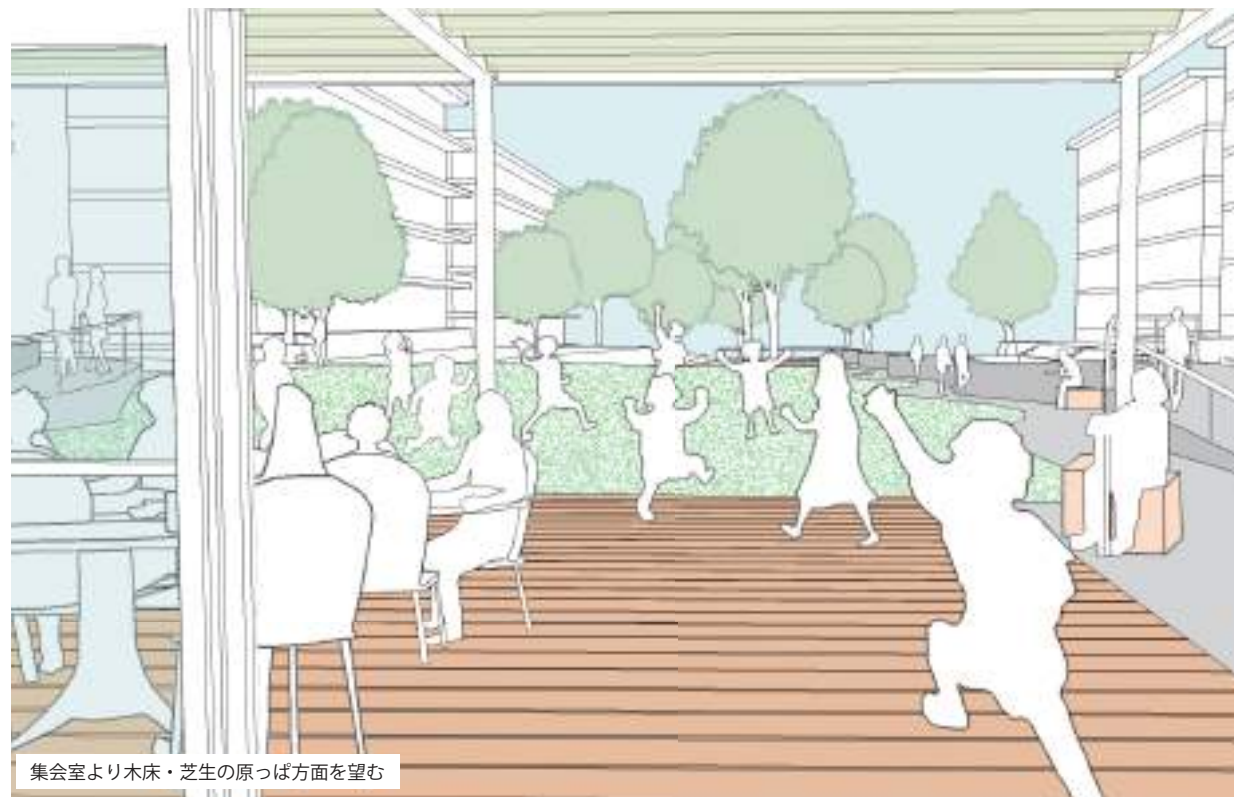
こもれび広場の木2本は活かすこととしますが、地盤レベルの関係で東側の樹木は若い樹に植え替え、イメージが一新された緑陰の広場を創ります。ここは落ち着いた環境の住民の方々への居場所となるように設え、土系舗装で管理車両の一時進入や各種イベントやゲートボール、健康体操等の多目的な使われ方が可能な空間ともなります。道路境界付近は、明るく見通しを確保した緩い段差の植栽地とし、東のゲート空間にふさわしい景観を演出します。

提案5 - 発生材は団地全体の環境再生の一助に

地盤を下げることで発生する土やコンクリートガラ、伐採樹は、団地および三角地を含む環境の改善、コスト削減に寄与するよう配慮します。例えば、発生土は流出土の補充や緑地の覆土・嵩上げなどのランドスケープの一部に再利用する（「2」外部空間改善の考え方参照）ことで、極力処分量の軽減に努めます。またコンクリートガラは栗石サイズに砕き、コンクリート床版の基礎や擁壁替りの蛇籠の詰石に、伐採樹木の幹は乾燥後に輪切りしてスツールに、枝葉はチップ化し、場所に依じて堆肥バーク替りに利用することも提案します。

提案6 - デザインプロセスの居住者の方々との共有

設計（デザイン）プロセスにおいて住民参加のワークショップを並行し、設計提案への理解を得るとともに、居住者の方々の意見、各種アイデアを反映した設計内容にしたいと考えています。また整備段階での前掲の専門家の指導のもとでの芝張りへの子どもたちの参加、そして花植え、裸地への覆土協力なども、工事費の軽減だけでなく、その後の維持管理にも寄与することとなります。また完成時のイベントアイデアから活用イメージ等の共有も期待したいと思います。そのようなプロセスを経て、共に創り込んでいくことを提案します。



集会所より木床・芝生の原っぱ方面を望む



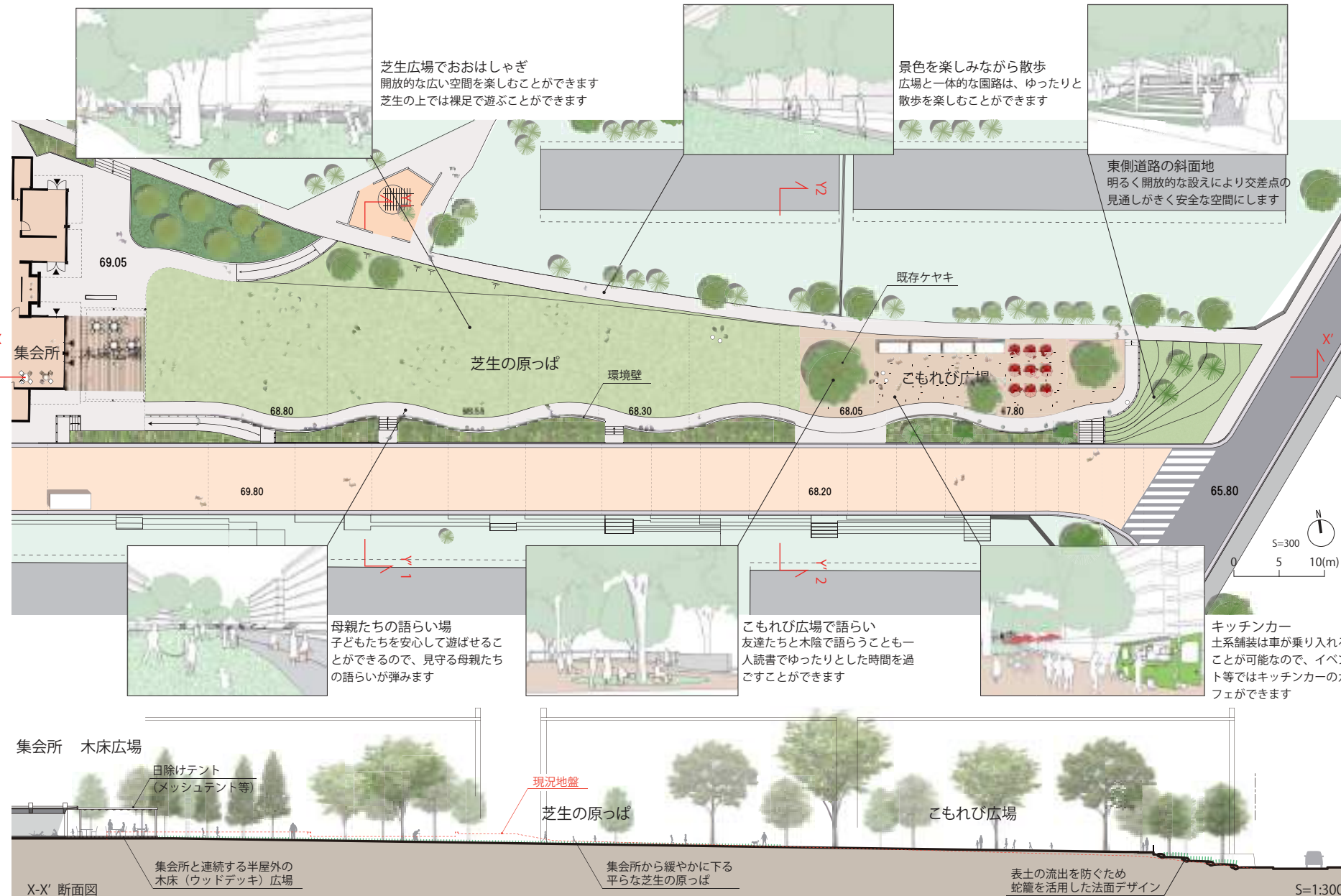
集会所周辺のイメージ



南東側より集会所方面を望む



全体イメージ



芝生広場でおおはしゃぎ
開放的な広い空間を楽しむことができます
芝生の上では裸足で遊ぶことができます

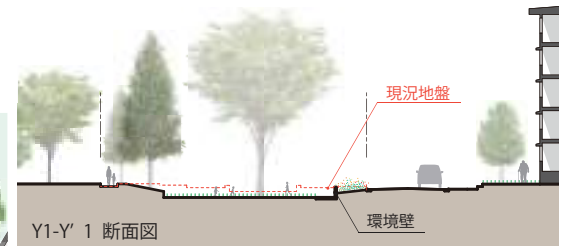
景色を楽しみながら散歩
広場と一体的な園路は、ゆったりと
散歩を楽しむことができます

東側道路の斜面地
明るく開放的な設えにより交差点の
見通しがよく安全な空間にします

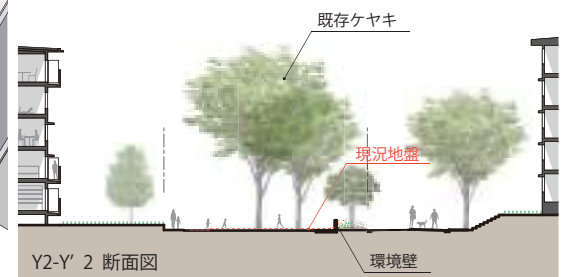
母親たちの語り場
子どもたちを安心して遊ばせる
ことができるので、見守る母親たち
の語りが弾みます

こもれび広場で語り
友達たちと木陰で語り合うことも
一人読書でゆったりとした時間を過
すことができます

キッチンカー
土系舗装は車が乗り入れる
ことが可能なので、イベント
等ではキッチンカーのカ
フェができます



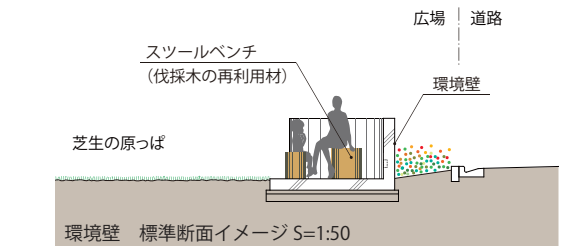
Y1-Y' 1 断面図



Y2-Y' 2 断面図

広場デザインの考え方

集会所と芝生の原っぱを同じレベルにするため、プール周辺の高さを600mm程度下げます。また、集会所から東側に一律の緩勾配で下げていくことにより1つの連続した広場空間を生み出します。芝生の原っぱと南側の道路側とは、0~750mm程度のレベル差が生じるため、道路側には植栽帯を確保するとともに、境界を形成するやわらかな曲線の環境壁を連続して設置します。環境壁沿いには園路を設けて移動可能なベンチを設置できる、憩いの空間となるようにします。



環境壁 標準断面イメージ S=1:50

四季を通して「使いやすい」広場づくり

(仮称) ホソナガ広場の年間イベントカレンダー

ホソナガ広場では、開放的な芝生の原っぱを中心に様々なイベントを開催することができます。現在団地内で行われているイベントとも連携し、年間を通して多種多様な利用ができる、「使いやすい」広場づくりを目指していきます。定期的なイベントや季節ごとのイベント、住人企画のイベントなどを通して団地のコミュニティの中心となります。

春 Spring

4月 お花見の会
団地みんなで食事会

5月 こいのぼり祭り
青空教室

6月 康体操教室
キャンドルナイト

7月 七夕祭り
朝ヨガ教室

8月 夏祭り・盆踊り
広場キャンプ

9月 映画上映会
防災訓練

10月 秋祭り
ハロウィンパーティー
フリーマーケット

11月 芋煮汁の会
落ち葉でデザイン教室

12月 ダンチ・クリスマス

1月 餅つき大会
お正月の遊びをしよう

2月 みんなで節分
チョコケーキ教室 (集会室・木床広場)

3月 ひなまつり
クッキー教室 (集会室・木床広場)



ストリートパーティ
写真: mail online



青空教室
晴れた日には外で勉強ができます
団地の住人が先生となって普段と違う勉強もいかがでしょうか

夏 Summer

秋 Autumn

冬 Winter

生物多様性に配慮した植栽計画

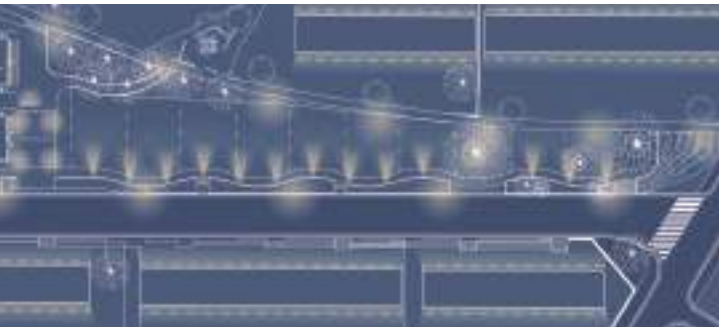
植栽帯は、地域の在来種を主体に密度高く混植することで生物多様性にも配慮し、かつ年間を通して葉色の変化や花を楽しめるような植栽計画を検討していきます。東側の植栽地には、蛇籠を使用した段差処理・植栽デザインを用いることで土壌の流出を防ぐとともに、環境配慮の多孔質な空間を作り出します。



在来種を中心とした植栽イメージ
(はあと保育園・山口市)

夜間景観の演出

夜間の広場は、環境壁に設置するフロアウォッシャータイプの照明と歩道沿いに一定距離ごとに設置するポラードタイプの照明などの省エネ・長寿命 (LED) 型の低位置照明を配し、居住環境に配慮しつつ、夜でも安心感を与え、かつ団地の顔にふさわしい夜間の景観づくりを進めていきます。



1期整備地区 概算工事費

工事費および維持費軽減を計るため、構造物等は必要最小限に抑え、発生材も団地環境整備に寄与すべく再利用します。例えば、土は周囲の築山や覆土に、コンクリート殻は砕いて蛇籠の詰石、除伐樹の枝はパーク替りに、幹はスツールとして再利用できます。また広場の芝張りや張替、芝刈などは子どもたちや住民の方々の地域イベントとして行うことも、愛着の持たれる空間づくりには最適と思われる。



芝生張りのイベントイメージ
「わいわい!!」コンテナプロジェクト
写真: ワークビジョン提供

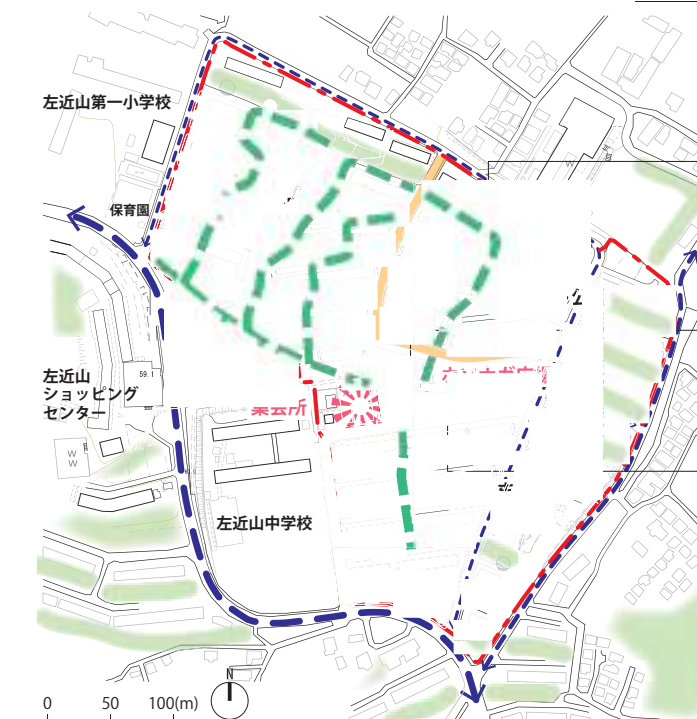
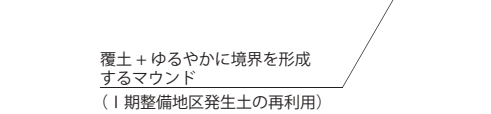
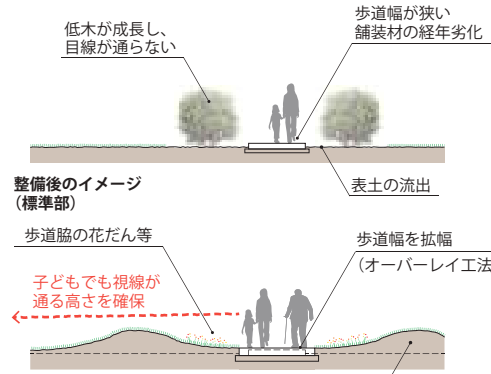
工種	仕様	単位	数量	金額(千円)	備考
1)	準備工/既存構造物撤去工	プール施設、擁壁、階段、舗装等、植栽撤去処分(既存樹木、灌木類)	式	1	4,650
2)	基礎修正工・排水施設工	地盤掘削・土搬出、整地・法面修正、排水施設工	式	1	3,560
3)	緑石・擁壁・舗装工	緑石・塊石、植栽用緑石工、舗装工(コンクリート、木床、土系)	式	1	8,370
4)	植栽工	高木、地被・法面保護、野草混合植栽、芝張(材のみ)、植栽基礎改良	式	1	4,750
5)	街具・照明工	環境壁、ベンチ・スツール工、可動テント・フレーム、可動テーブル・イス、照明工	式	1	15,270
直接工事費					36,600
諸経費					10,980
総工事費					47,580

2) 外部空間改善の考え方 (団地全体計画)

提案1-歩行者通路の改善

広場のイメージアップにあわせ、団地内の歩行空間の改善を提案します。中央地区のアプローチ空間で、子供たちの日常通学ルートとなっている歩行者専用道路も経年劣化が見られます。現在は背丈ほどある植え込みに挟まれている細い歩行環境を、見通しがききゆつたりとした幅員をもつ歩行者通路に改善します。歩行者通路の両側には、侵入防止のためのマウンドを連続させ、花卉類または地被類等の背丈の低い植栽を行うことで快適で安全な歩行空間を実現します。

現在のイメージ



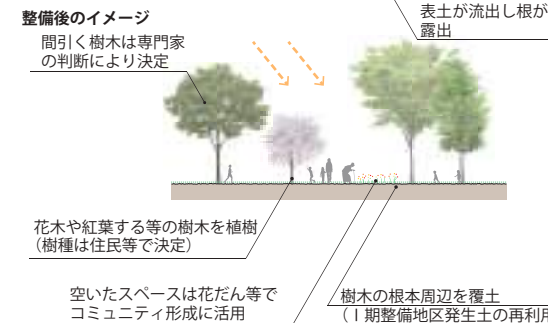
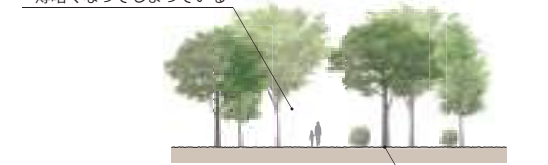
提案3-状況に合わせた公園リニューアル計画

公園施設は老朽化が進み、また周辺居住者との利用ニーズとの乖離が生じていることが想定されます。各公園に設置されている遊具は、大事に管理をしていきながら維持していくとともに、施設の更新の際には高齢者の方も利用できる健康遊具の導入も含めて検討を進めていきます。また南側の公園は、「(仮)まるまる公園」と名付け、遊具やベンチなどの施設を設置する場合は、例えば円形のものモチーフにしたデザインを展開していくことで、周辺居住者の方から愛着を持ってもらえるようにします。

提案2-適度な間引きによる明るい樹林環境

団地内のオープンスペース、特に公園の樹木は大きく成長し、下の空間を薄暗くしてしまっています。高木を適宜間引きして明るい空間にするとともに、空いたスペースには新たにシンボルとなるような若木を植えたり、花だん等のコミュニティ形成に資するような施設を設置します。1期整備地区の工事により発生する土を再利用し、時間の経過とともに流出した土を補充するための覆土を行い樹木の生育環境を改善します。

現在のイメージ



優先的に改善を行う歩行者通路は、アクションプランに位置づけられている通路を基本として選定する

団地内の賑わい形成の核となるホソナガ広場と(仮)交流センター(集会所内)

歩車共存道路は、通過交通が流入しない生活道路レベルにおいて検討を進める

- 凡例
- 優先的に改善を行う歩行者通路
 - 自動車道路網
 - 適度な間引き等をを行う場所
 - 歩車共存道路の検討を行う行道路

提案4-歩車共存道路の検討

長期的には市道管理部分や団地管理アプローチ道路の舗装打ち替えなどの機会を捉え、歩行者優先型の共存道路(シェアドスペース)など、より歩行者にやさしい環境づくりも模索していくべきと考えます。特にホソナガ広場南側の道路は、広場と連続して接することから優先的に検討を進めていくことが望ましいと考えます。

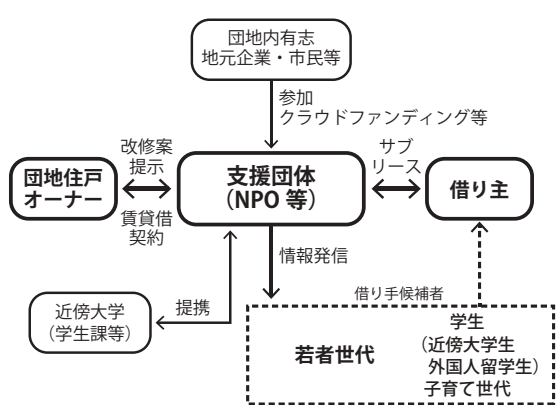
歩車共存道路イメージ(浦安市)

3) 空き家活用

提案1-中間支援組織によるマッチング

経年団地の最大の課題は居住者年齢構成の偏り、そして空き家の増加です。その対処法は全国各地で様々な試みがなされ、市建築局の作成した「団地再生アイデア集、平成25年3月」、そして「MUJI×UR団地リノベーションプロジェクト」に種々整理・提案されています。その中で「団地の一部を大規模修繕し、若者向け住戸に転換」の項に着目し、様々な議論を経て、次の提案を参考までに提示します。

- 地方から首都圏とりわけ横浜近傍の大学に進学または外国からの留学生の団地内居住を積極的に受け入れることとし、団地内活動への参加を条件に、何らかの家賃補助または低減等の仕組みを考案する。
- 団地内有志を中心に、若者支援のための団体(NPO等)を設立する。できれば地元企業や大学、市民など内外の協力のほか、クラウドファンディング活用も含めた仕組みを用い、支援に必要な基金を集める。
- 支援団体は空き家オーナーの了解を得て、学生等が入居しやすいような内装・設備改修案を提案、オーナー負担または団体出資の形で、改修を行う。
- 支援団体は各大学学生課等と提携し、入居者の幹事・紹介、インターネット活用の情報発信も行う。
- 賃貸借契約は支援団体のサブリース方式とし、事前にオーナーおよび地元不動産屋さんの了解を得て、入居者募集協力から契約、その後の管理代行等を行うこととする。



4) 業務実施体制

今回のプロジェクトを進めるに当たり、私たちは大学研究室と設計事務所の協働によるチームを構成します。2つのグループの統括は、経験・実績豊富な都市デザイナーが務めます。学生の柔軟なアイデアと行動力を実務経験のある専門家がサポートすることで実現性を担保すると共に、よりよい提案ができる体制を整えます。

左近山団地プロジェクト コンソーシアム

